

景気ウォッチャー調査

Economy Watchers Survey

平成13年1月調査結果

平成13年2月15日

内閣府政策統括官
(経済財政・景気判断・政策分析担当)

目 次

調査の概要
利用上の注意
D Iの算出方法

調査結果	1
. 全国の動向	2
1 . 景気の現状判断D I	2
2 . 景気の先行き判断D I	2
. 各地域の動向	4
1 . 景気の現状判断D I	4
2 . 景気の先行き判断D I	6
. 景気判断理由の要約	8
(参考) 景気の現状水準判断D I	20
景気判断理由集	21
. 景気の現状に対する判断理由	22
. 景気の先行きに対する判断理由	49

調査の概要

1. 調査の目的

地域の景気に関連の深い動きを観察できる立場にある人々の協力を得て、地域ごとの景気動向を的確かつ迅速に把握し、景気動向判断の基礎資料とすることを目的とする。

2. 調査の範囲

(1) 対象地域

北海道、東北、北関東、南関東、東海、北陸、近畿、中国、四国、九州、沖縄の11地域を対象とする。各地域に含まれる都道府県は以下のとおりである。(なお、平成12年1月調査の対象地域は、北海道、東北、東海、近畿、九州の5地域、平成12年2月調査から9月調査までの対象地域は、これら5地域に関東を加えた6地域である。)

地域	都道府県	
北海道	北海道	
東北	青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島、新潟	
関東	北関東	茨城、栃木、群馬、山梨、長野
	南関東	埼玉、千葉、東京、神奈川
東海	静岡、岐阜、愛知、三重	
北陸	富山、石川、福井	
近畿	滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山	
中国	鳥取、島根、岡山、広島、山口	
四国	徳島、香川、愛媛、高知	
九州	福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島	
沖縄	沖縄	
全国	上記の計	

(2) 調査客体

家計動向、企業動向、雇用等、代表的な経済活動項目の動向を敏感に反映する現象を観察できる業種の適当な職種の中から選定した1,500人を調査客体とする。調査客体の地域別、分野別の構成については、別紙を参照のこと。

3. 調査事項

- (1) 景気の現状に対する判断(方向性)
- (2) (1)の理由
- (3) 景気の先行きに対する判断(方向性)
- (4) (3)の理由
- (参考) 景気の現状に対する判断(水準)

4. 調査期日及び期間

調査は毎月、当月時点であり、調査期間は毎月25日から月末である。

5. 調査機関及び系統

内閣府が主管し、各調査対象地域に地域ごとの調査を実施する「地域別調査機関」を1か所ずつ設けるとともに、各地域別調査機関による地域ごとの調査結果を集計・分析する「取りまとめ調査機関」を1か所設け、これらの機関に本調査業務を委託して実施したものである。

(取りまとめ調査機関)		財団法人	日本経済研究所
(地域別調査機関)	北海道	株式会社	北海道二十一世紀総合研究所
	東北	財団法人	東北開発研究センター
	北関東	財団法人	日本経済研究所
	南関東	財団法人	日本経済研究所
	東海	株式会社	東海総合研究所
	北陸	財団法人	北陸経済研究所
	近畿	株式会社	大和銀総合研究所
	中国	社団法人	中国地方総合研究センター
	四国	四国経済連合会	
	九州	財団法人	九州経済調査協会
	沖縄	財団法人	九州経済調査協会

6. 有効回答率

地域	調査客体	有効 回答客体	有効 回答率	地域	調査客体	有効 回答客体	有効 回答率
北海道	125人	121人	96.8%	近畿	200人	188人	94.0%
東北	200人	181人	90.5%	中国	100人	100人	100.0%
北関東	80人	73人	91.3%	四国	100人	96人	96.0%
南関東	170人	153人	90.0%	九州	200人	173人	86.5%
東海	200人	190人	95.0%	沖縄	25人	21人	84.0%
北陸	100人	98人	98.0%	全国	1,500人	1,394人	92.9%

利用上の注意

1. 分野別の表記における「家計動向関連」、「企業動向関連」、「雇用関連」は、各々家計動向関連業種の景気ウォッチャーによる景気判断、企業動向関連業種の景気ウォッチャーによる景気判断、雇用関連業種の景気ウォッチャーによる景気判断を示す。
2. 表示単位未満の端数は四捨五入した。したがって、計と内訳は一致しない場合がある。
3. 沖縄地域のD Iは、調査客体数が少ないことから、当面の間、参考扱いとする。

D Iの算出方法

景気の現状、または、景気の先行きに対する5段階の判断に、それぞれ以下の点数を与え、この点数で回答結果の構成比(%)を加重平均して、D Iを算出した。

評価	良くなっている (良い)	やや良くなっている (やや良い)	変わらない (どちらとも いえない)	やや悪くなっている (やや悪い)	悪くなっている (悪い)
点数	+ 1	+ 0 . 7 5	+ 0 . 5	+ 0 . 2 5	0

調 査 結 果

- . 全国の動向
 - 1 . 景気の現状判断 D I
 - 2 . 景気の先行き判断 D I
- . 各地域の動向
 - 1 . 景気の現状判断 D I
 - 2 . 景気の先行き判断 D I
- . 景気判断理由の要約
- (参考) 景気の現状水準判断 D I

．全国の動向

1．景気の現状判断D I

3か月前と比較しての景気の現状に対する判断は、以下のとおりであった。

図表1 景気の現状判断D I

(D I)	年 月	2000 8	9	10	11	12	2001 1
合計		48.8	47.8	46.5	45.3	44.4	41.5
家計動向関連		46.2	44.7	42.9	42.6	43.7	41.0
小売関連		43.5	43.6	41.8	41.1	40.9	40.5
飲食関連		43.9	39.2	36.5	40.8	48.6	42.1
サービス関連		51.9	47.9	47.9	46.9	48.4	41.7
住宅関連				42.0	42.4	45.1	41.9
企業動向関連		52.6	53.5	51.3	49.0	44.6	39.5
製造業				51.9	48.6	44.8	36.6
非製造業				51.0	48.8	44.3	41.3
雇用関連		62.5	59.4	60.5	56.4	48.6	48.6

図表2 構成比

年	月	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている	D I
2000	11	1.2%	18.8%	47.0%	25.9%	7.0%	45.3
	12	1.6%	16.9%	45.7%	29.0%	6.8%	44.4
2001	1	1.1%	13.8%	44.5%	31.2%	9.4%	41.5

2．景気の先行き判断D I

2～3か月先の景気の先行きに対する判断は、以下のとおりであった。

図表3 景気の先行き判断D I

(D I)	年 月	2000 8	9	10	11	12	2001 1
合計		51.2	52.6	48.9	47.2	44.3	46.7
家計動向関連		47.9	50.0	47.2	46.4	44.1	47.2
小売関連		45.4	46.8	45.6	45.5	43.3	46.6
飲食関連		48.2	49.1	49.4	48.1	39.2	48.4
サービス関連		52.4	55.5	50.5	48.7	46.2	48.4
住宅関連				46.2	44.2	48.5	46.0
企業動向関連		57.7	56.7	50.9	47.3	43.8	44.7
製造業				50.2	44.4	42.8	43.8
非製造業				51.4	49.7	44.8	45.6
雇用関連		63.6	64.1	56.7	53.0	47.4	47.4

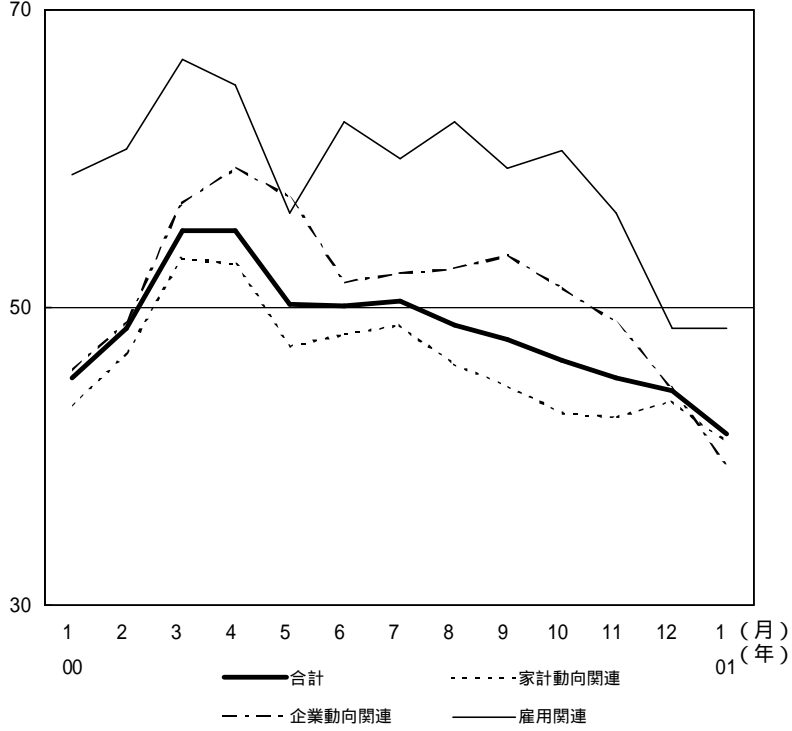
図表4 構成比

年	月	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている	D I
2000	11	0.7%	17.8%	55.8%	21.2%	4.5%	47.2
	12	0.8%	14.8%	52.0%	25.7%	6.6%	44.3
2001	1	1.1%	18.2%	52.3%	22.9%	5.5%	46.7

(備考) 10月以降は全国1,500人を調査対象とし、9月以前は6地域600人を対象とする。

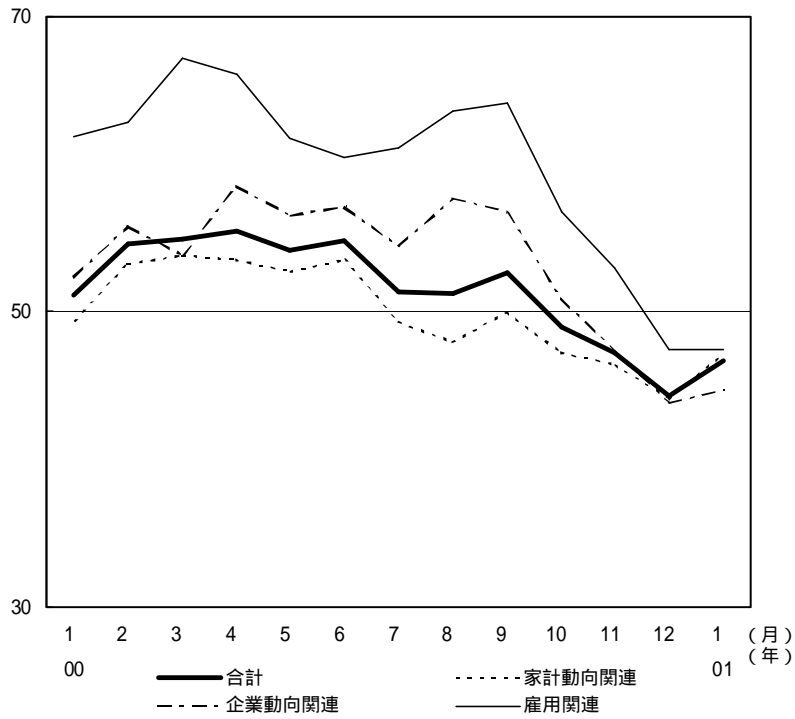
(D I)

図表5 景気の現状判断D I



(D I)

図表6 景気の先行き判断D I



．各地域の動向

1．景気の現状判断D I

図表7 景気の現状判断D I（各分野計）

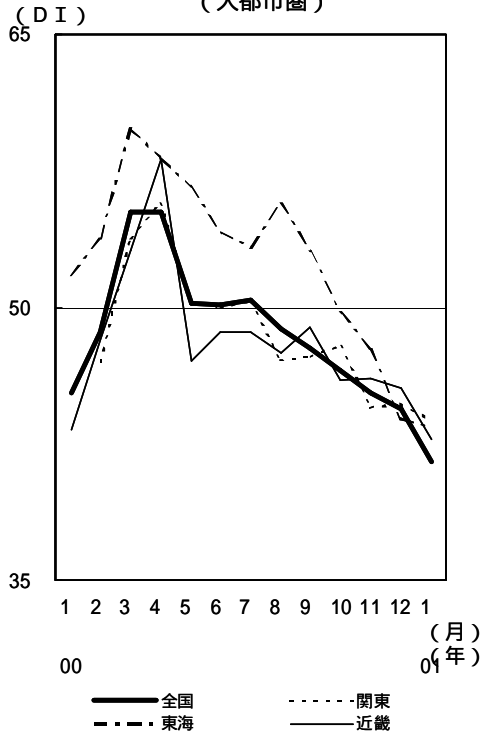
(D I)	年 月	2000 8	9	10	11	12	2001 1
全国		48.8	47.8	46.5	45.3	44.4	41.5
北海道		45.5	46.2	46.1	48.3	48.5	41.9
東北		48.1	48.2	47.8	43.3	41.8	36.9
関東		47.1	47.3	47.9	44.5	44.7	43.8
北関東				47.6	47.0	43.3	43.2
南関東				48.1	43.3	45.3	44.1
東海		55.7	53.1	49.7	47.7	43.9	43.4
北陸				43.0	44.2	45.9	41.8
近畿		47.5	48.9	46.0	46.1	45.6	42.8
中国				46.0	46.3	42.5	42.5
四国				39.9	43.4	40.8	38.0
九州		49.2	43.1	46.4	43.7	45.2	40.9
沖縄				45.8	50.0	44.0	38.1

図表8 景気の現状判断D I（家計動向関連）

(D I)	年 月	2000 8	9	10	11	12	2001 1
全国		46.2	44.7	42.9	42.6	43.7	41.0
北海道		43.3	42.5	42.6	45.5	48.5	42.9
東北		44.9	45.1	44.9	40.6	41.0	35.0
関東		45.2	42.7	43.6	41.5	43.8	44.2
北関東				44.2	43.6	42.5	43.1
南関東				43.2	40.3	44.4	44.8
東海		52.2	48.9	47.1	45.3	43.8	42.0
北陸				37.7	41.7	46.3	44.0
近畿		43.0	45.9	41.4	42.1	43.6	41.5
中国				41.4	44.6	42.1	43.2
四国				37.3	43.2	40.5	36.7
九州		48.5	43.2	43.9	40.3	44.3	40.4
沖縄				43.8	50.0	41.7	35.0

（備考）10月以降は全国1,500人を調査対象とし、9月以前は6地域600人を対象とする。

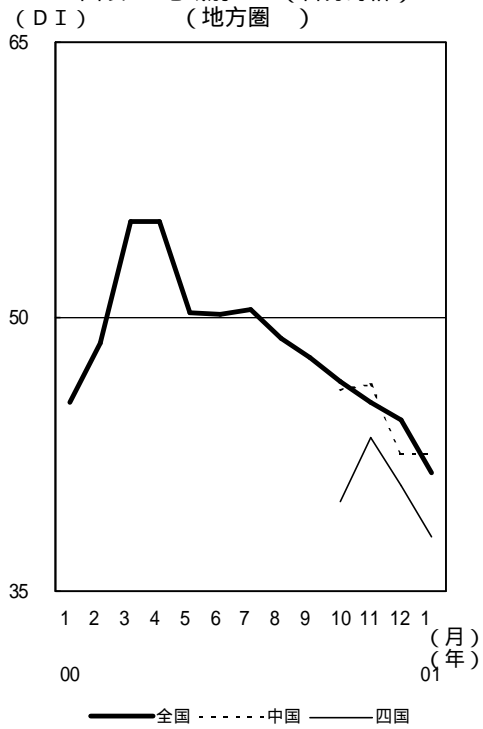
図表9 地域別D I (各分野計)
(大都市圏)



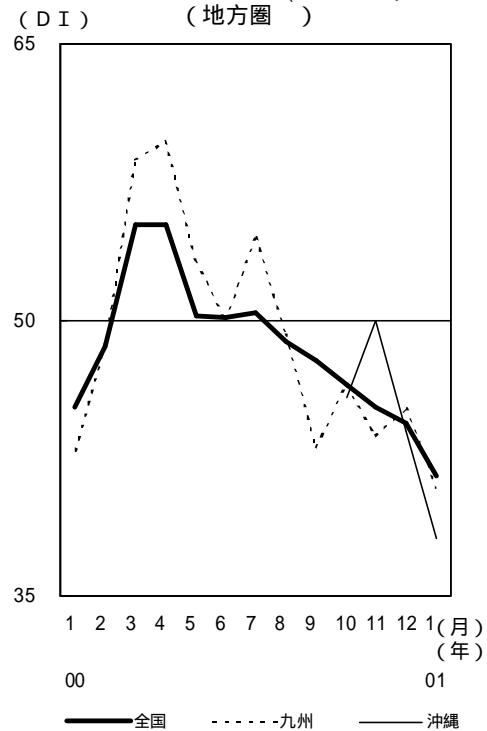
図表10 地域別D I (各分野計)
(地方圏)



図表11 地域別D I (各分野計)
(地方圏)



図表12 地域別D I (各分野計)
(地方圏)



2. 景気の先行き判断D I

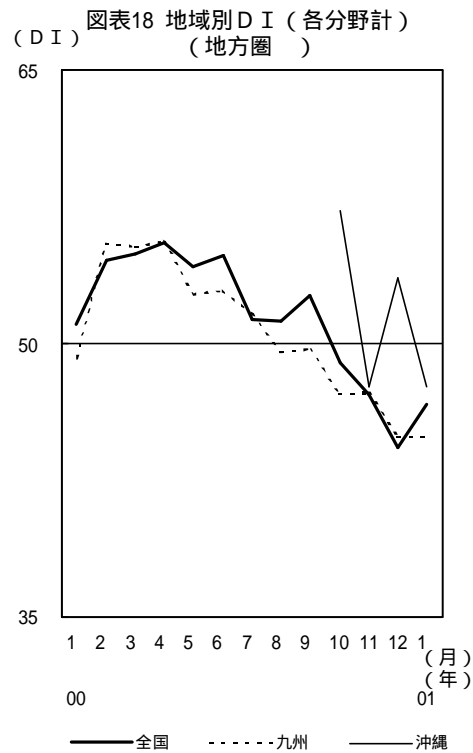
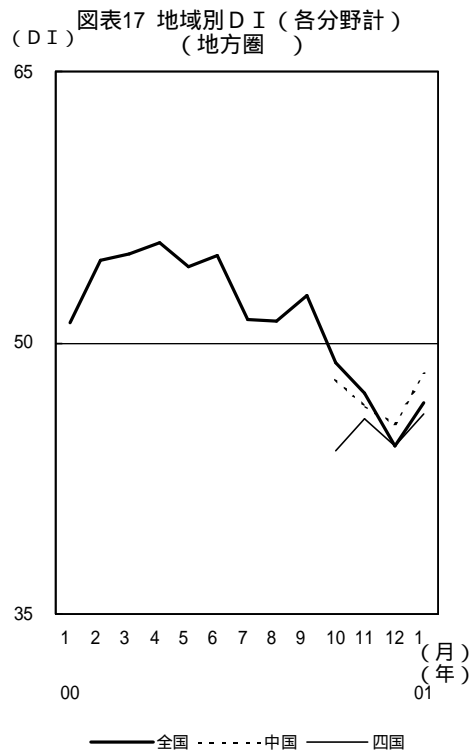
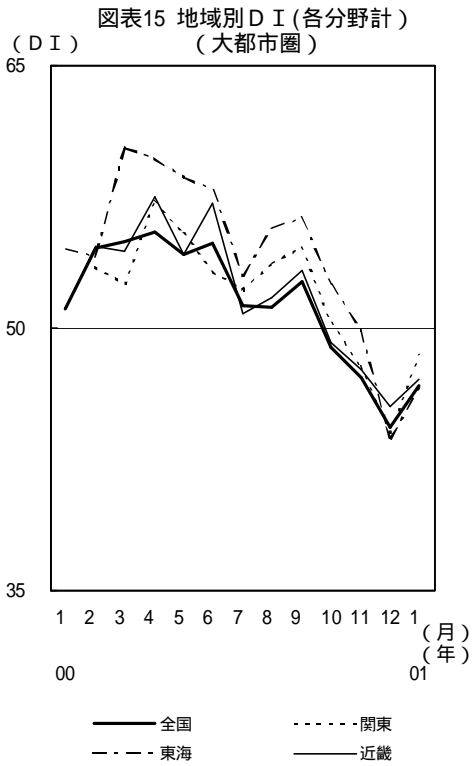
図表 13 景気の先行き判断D I (各分野計)

(D I)	年 月	2000 8	9	10	11	12	2001 1
全国		51.2	52.6	48.9	47.2	44.3	46.7
北海道		47.2	49.0	44.1	46.5	42.9	47.1
東北		49.7	52.9	51.4	46.6	42.4	44.9
関東		53.7	54.6	50.3	47.8	44.0	48.5
北関東				48.6	47.0	43.0	50.3
南関東				51.1	48.2	44.5	47.5
東海		55.7	56.3	52.5	49.9	43.7	46.6
北陸				47.3	44.4	45.4	46.7
近畿		51.7	53.3	49.2	47.6	45.5	47.1
中国				48.0	46.5	45.5	48.3
四国				44.1	45.8	44.3	46.1
九州		49.5	49.7	47.2	47.3	44.9	44.9
沖縄				57.3	47.6	53.6	47.6

図表 14 景気の先行き判断D I (家計動向関連)

(D I)	年 月	2000 8	9	10	11	12	2001 1
全国		47.9	50.0	47.2	46.4	44.1	47.2
北海道		44.4	45.4	41.8	46.7	43.6	47.3
東北		47.4	49.6	51.0	45.6	43.4	45.3
関東		50.0	50.8	49.1	46.9	42.7	49.0
北関東				48.6	46.8	43.4	51.0
南関東				49.3	46.9	42.4	48.1
東海		51.4	52.1	51.0	48.6	43.1	48.1
北陸				44.2	43.1	44.9	50.0
近畿		48.8	52.0	46.7	47.4	45.8	47.6
中国				45.7	46.4	46.4	50.0
四国				42.2	45.1	45.2	45.5
九州		45.8	50.4	45.4	45.8	42.9	42.6
沖縄				56.3	43.3	50.0	48.3

(備考) 10月以降は全国1,500人を調査対象とし、9月以前は6地域600人を対象とする。



景気判断理由の要約

全国

良、 やや良、 不変、 やや悪、 ×悪

現状	多数回答	家計動向 関連	変わらない	<ul style="list-style-type: none"> 客単価が低迷している（百貨店、スーパー、コンビニ等）。 来客数に変化がない（商店街、スーパー、衣料品専門店等）。
			やや悪くなっている	<ul style="list-style-type: none"> 客単価が低下している（スーパー、コンビニ、ゴルフ場等）。
	企業動向 関連	変わらない	<ul style="list-style-type: none"> 価格が低下している（一般機械器具製造業、電気機械器具製造業、輸送業等）。 受注状況が変わらない（一般機械器具製造業、建設業等）。 	
		やや悪くなっている	<ul style="list-style-type: none"> 受注状況が悪化している（繊維工業、電気機械器具製造業、精密機械器具製造業等）。 	
	雇用 関連	変わらない	<ul style="list-style-type: none"> 正社員の求人が低調である（人材派遣会社、新聞社〔求人広告〕、学校〔専門学校〕）。 求職者数が横ばいである（職業安定所）。 	
		やや悪くなっている	<ul style="list-style-type: none"> 企業が求人に慎重となっている（求人情報誌製作会社、学校〔大学〕）。 	
特徴	<ul style="list-style-type: none"> IT・情報産業以外の分野にも新規求人がかなり拡大している（北陸=職業安定所）。 クリアランスセールをしても期待どおりの売上を確保できない（北海道=百貨店）。 冬物セールの時期に大雪だったため、来客数が減少した（北陸=百貨店）。 ×：大型店の出店により売上が徐々に悪化している（近畿=小売店〔衣服〕）。 			
先行き	多数回答	家計動向 関連	変わらない	<ul style="list-style-type: none"> 客の買い控えが続く（商店街、スーパー、衣料品専門店、等）。 低価格志向に変化がない（百貨店、スーパー、一般レストラン等）。
			やや悪くなっている	<ul style="list-style-type: none"> 客単価の低下が続く（コンビニ、住関連専門店、都市型ホテル等）。
	企業動向 関連	変わらない	<ul style="list-style-type: none"> 価格面で厳しい状況にある（電気機械器具製造業、建設業、輸送業等）。 受注が低迷している（繊維工業、一般機械器具製造業、電気機械器具製造業等）。 	
		やや悪くなっている	<ul style="list-style-type: none"> 価格引き下げ要請が強い（金属製品製造業、出版・印刷・同関連産業）。 	
	雇用 関連	変わらない	<ul style="list-style-type: none"> 求人が横ばい傾向にある（求人情報誌製作会社、新聞社〔求人広告〕、職業安定所）。 倒産、リストラの影響が予想される（人材派遣会社、職業安定所）。 	
		やや悪くなっている	<ul style="list-style-type: none"> 求人が減少気味である（職業安定所）。 	
特徴	<ul style="list-style-type: none"> 新型モデルの発表を控え、先行き景気は良い（南関東=乗用車販売店）。 客単価上昇、一品単価下げ止まりという状況で、今後、その傾向が続けば売上は伸びる。食品、雑貨等で一部にヒット商品があり、今後の伸びが期待できる（北関東=スーパー）。 家電リサイクル法実施前の駆け込み需要が期待できる（南関東=家電量販店）。 新たな求人はあるが、中高年の求職者が滞留しており、ミスマッチが生じている（北陸=職業安定所）。 アメリカからの需要がかなり減少している（北陸=一般機械器具製造業）。 			

（備考）

- 「多数回答」欄は、3分野（「家計」「企業」「雇用」）それぞれについて、5つの回答区分（「良」「やや良」「不変」「やや悪」「悪」）の中で回答者数が多かった上位2区分を上から順に掲載している。また、掲載されている各コメントは、それら上位回答区分の中における代表的な回答である。
- 「特徴」欄は、「多数回答」欄に掲載されたもの以外で特徴と考えられるものを掲載している。

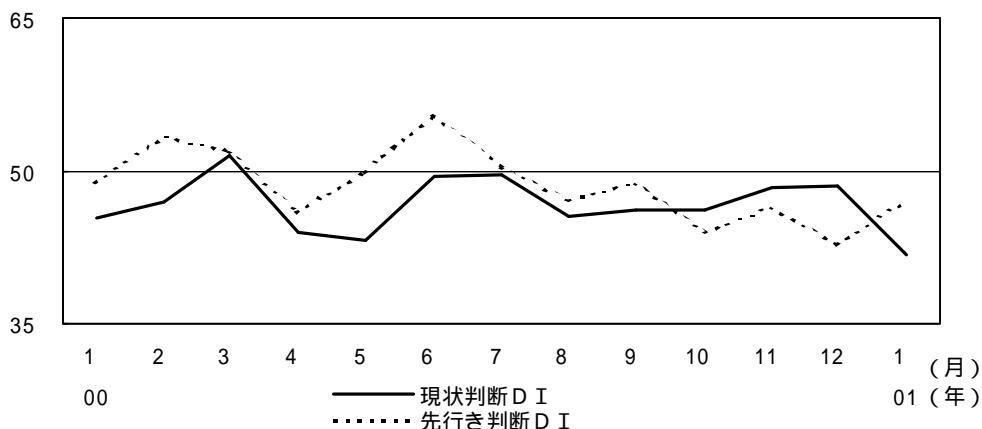
1. 北海道

良、 やや良、 不変、 やや悪、 ×悪

現状	多数回答	家計動向関連	変わらない	・客単価が低下したままである（商店街、スーパー、コンビニ等）。 ・売上に変化がない（家電量販店、自動車備品販売店、観光型ホテル等）。
			やや悪くなっている	・来客数が減少している（衣料品専門店、高級レストラン、スナック等）。
	企業動向関連	変わらない	・リース案件が低調である（その他サービス業〔建設機械リース〕）。	
		やや悪くなっている	・設備投資動向が低水準である（金融業）。 ・荷動きに盛り上がりがない（輸送業）。	
	雇用関連	変わらない	・正社員の新規採用に積極性がない（新聞社〔求人広告〕）。	
やや悪くなっている		・パート、派遣社員が中心である（職業安定所）。 ・機械器具製造業の求人に一服感がある（職業安定所）。		
特徴	: 中国、台湾からの団体客が増加している（一般レストラン）。 : 初売りから成人式までは好調であったが、その後クリアランスセールをしても期待どりの売上を確保できない（百貨店）。 : 新年会に出席するためのタクシー利用が閑散としている（タクシー運転手）。 : 土地の値下がり止まらない（住宅販売会社）。 × : 極端に荷動きが低迷している（食料品製造業）。			
先行き	多数回答	家計動向関連	変わらない	・春物商戦に期待できない（百貨店、スーパー）。 ・低価格志向である（スーパー、住宅販売会社）。
			やや悪くなっている	・客単価の低下が続く（コンビニ、住関連専門店、観光型ホテル）。
	企業動向関連	変わらない	・価格競争が続いている（通信業）。 ・設備投資は厳しい状況である（金融業、その他サービス業〔建設機械リース〕）。	
		やや悪くなっている	・荷動きが鈍い（輸送業）。	
	雇用関連	変わらない	・企業倒産や事業縮小による影響が出る（人材派遣会社）。 ・求人数の伸びが鈍化している（職業安定所）。	
やや悪くなっている		・建設業や水産業、飲食業の求人件数の減少が目立つ（新聞社〔求人広告〕）。		
特徴	: 家電リサイクル法施行の関係で、客からの問い合わせや下見にくる客が増加している（家電量販店）。 : 公共工事が減少し、冬枯れが予想される（その他サービス業〔建設機械リース〕）。 : 異動シーズンに入るが、歓送迎会は縮小しており、2次会も少ない（スナック）。 : 大手スーパーの物件も峠を越え、札幌駅南口、琴似駅等の再開発案件のみとなり、荷動きが鈍くなる（輸送業）。			

(D I)

図表19 現状・先行き判断D Iの推移

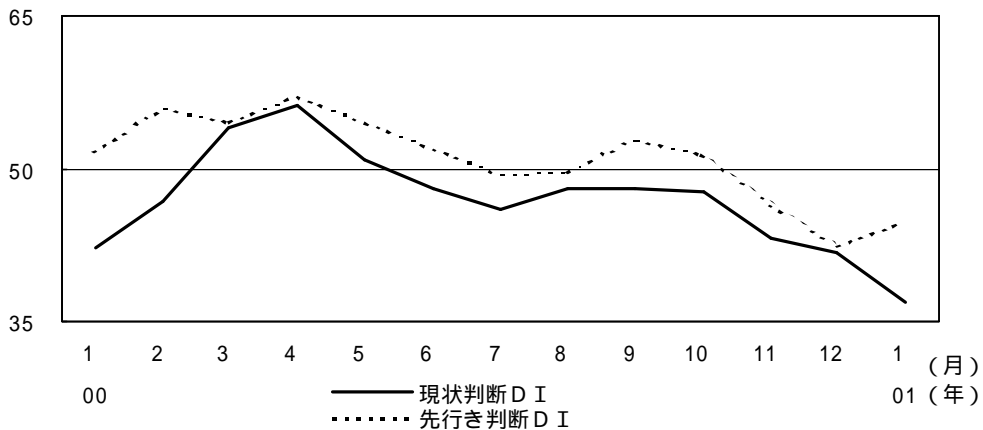


2. 東北

良、 やや良、 不変、 やや悪、 ×悪

現状	多数回答	家計動向 関連	変わらない	・客単価が低迷している（百貨店、スーパー、観光名所等）。 ・客が低価格志向である（百貨店、スーパー、通信会社等）。	
			やや悪くなっている	・雪の影響がある（百貨店、遊園地、美容室等）。	
		企業動向 関連	変わらない	・状況に変化がない（食料品製造業、建設業等）。 ・物流が一進一退である（輸送業）。	
			やや悪くなっている	・値引き要求が厳しい（繊維工業、電気機械器具製造業等）。	
		雇用関連	変わらない	・新規求人数が増加傾向だが一般求人は増えない（職業安定所）。 ・有効求人倍率が横ばいである（職業安定所）。	
			やや悪くなっている	・客が求人にも慎重になっている（人材派遣会社）。	
	特徴	: 低価格帯の商品を中心に販売額が対前年比2ケタの伸びであるが、スーパーからの値引き要求が強く利益性は低下している（食料品製造業）。 : H P作成会社などIT関連の起業の動きはあるが、大手旅行代理店の合併の影響などもあり、全体的には変わらない（アウトソーシング企業）。 : 電気機械、医療福祉分野での求人が好調であるが、事業主都合の離職や若年層を中心とした求職者が増えている（職業安定所）。 : 前半、中盤と週末に雪の影響を受け、後半に挽回したが、穴埋めできなかった（百貨店）。 : 低価格商品でも買うのをためらう客が多い（百貨店）。 : 各業種間の競争、特にオーバーストア、価格競争、地域的競合などにより利益確保が難しい（コンビニ）。			
	先行き	多数回答	家計動向 関連	変わらない	・客の購買行動が慎重である（百貨店、乗用車販売店等）。 ・価格競争が厳しくなる（スーパー）。
				やや悪くなっている	・客の低価格志向がより顕著になっている（衣料品専門店）。
			企業動向 関連	変わらない	・民間工事は増加するが公共工事は減少する（建設業）。 ・物販などで先が見えない（コピーサービス業）。
やや悪くなっている				・農業収入が見込めない（農林水産業）。	
雇用関連			変わらない	・新規求人は増加するが有効求人倍率は低下する（職業安定所）。 ・求人広告が横ばいである（新聞社 [求人広告] ）。	
			やや悪くなっている	・企業の採用意欲が低調である（新聞社 [求人広告] ）。	
特徴		: 駅前再開発ビルが開業し、郊外型大型集積店と競争できるようになり、中央商店街への人が増えている（衣料品専門店）。 : スーパーに入っている当社の店では、閉店間際のディスカウントの時間帯に客が集中するなど、低価格化が一段と進んでいる（一般レストラン）。 : 新幹線効果は期待していたほど出ない（一般レストラン）。 : 新規出店の大型店の業績が悪く今後集客策として価格競争が一段と激化する（スーパー）。			

(D I) 図表20 現状・先行き判断 D I の推移

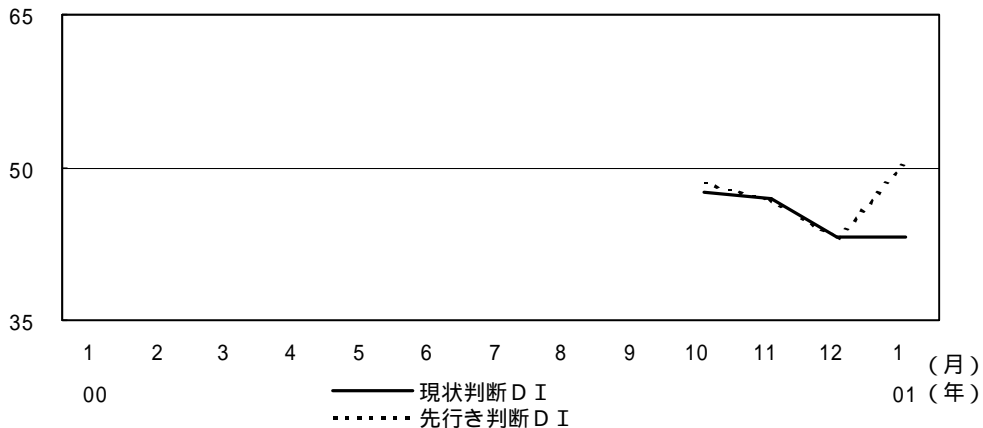


3. 北関東

良、 やや良、 不変、 やや悪、 ×悪

現状	多数回答	家計動向関連	変わらない	・新製品がなかなか売れない(コンビニ、乗用車販売店)。 ・購買意欲が低下している(乗用車販売店)。
			やや悪くなっている	・来客数が減少している(コンビニ、衣料品専門店)。
		企業動向関連	変わらない	・新規受注はあるが、従来品の受注は減っている(一般機械器具製造業)。 ・融資の一部繰上げ返済の相談が多い(金融業)。
			やや悪くなっている	・在庫調整の影響で受注が無い(電気機械器具製造業)。
		雇用関連	やや良くなっている	・派遣需要は堅調(人材派遣会社)。 ・有効求人倍率は改善しつつある(職業安定所)。
やや悪くなっている	・有効求職者数に占める雇用保険受給者の割合が高くなっている(職業安定所)。			
特徴	<p>：ここ数か月間の中で、客数の伸びが一番大きい。一品単価は下げ止まっており、客単価は上昇傾向にある。特に衣料品が好調である(スーパー)。</p> <p>：客の購買意欲は相変わらず低迷している。イベントをしても客集めにはなるが、売上に繋がらない。新型車も長続きせず、売れたとしても利益は低い(乗用車販売店)。</p> <p>：求人数、求人数ともに増加している反面、企業整理を行う事業所が多く、有効求職者数に占める雇用保険受給者の割合が高くなっている(職業安定所)。</p> <p>×：新年になっても中堅の不動産業が倒産するなど、底辺の実態経済の悪さは変わらない。企業業績の二極化の中で、新事業、新サービスに着手するものはわずかであり、売上や利益が上がらないと訴える声が支配的である(経営コンサルタント)。</p>			
先行き	多数回答	家計動向関連	変わらない	・商品単価の下落が続く(衣料品専門店)。 ・消費者の買い控えが続く(衣料品専門店)。
			やや良くなっている	・客の反応が積極的になっている(住宅販売会社)。
		企業動向関連	変わらない	・先行きが不透明である(経営コンサルタント、建設業)。 ・良い企業、悪い企業の二極化が進む(プラスチック製品製造業)。
			やや良くなっている	・生産が受注に追いつかない企業が出始めている(その他サービス業[情報サービス])。
		雇用関連	変わらない	・求人倍率が低下してきている(職業安定所)。 ・非自発的離職者が増加傾向にある(職業安定所)。
やや良くなっている	・派遣需要が活発(人材派遣会社)。			
特徴	<p>：客単価上昇、一品単価下げ止まりという状況で、今後、その傾向が続けば売上は伸びる。食品、雑貨等で一部にヒット商品があり、今後の伸びが期待できる(スーパー)。</p> <p>：新規求人数は前年比で毎月増加しているものの、求人倍率が低下してきている。また、新規求職者数、有効求職者数に占める中高年者の割合が高くなってきている(職業安定所)。</p> <p>：消費、投資に金を回すよりは、借上金を返済するほうが多いので、将来に対する不安が根強い(金融業)。</p>			

(D I) 図表21 現状・先行き判断D Iの推移

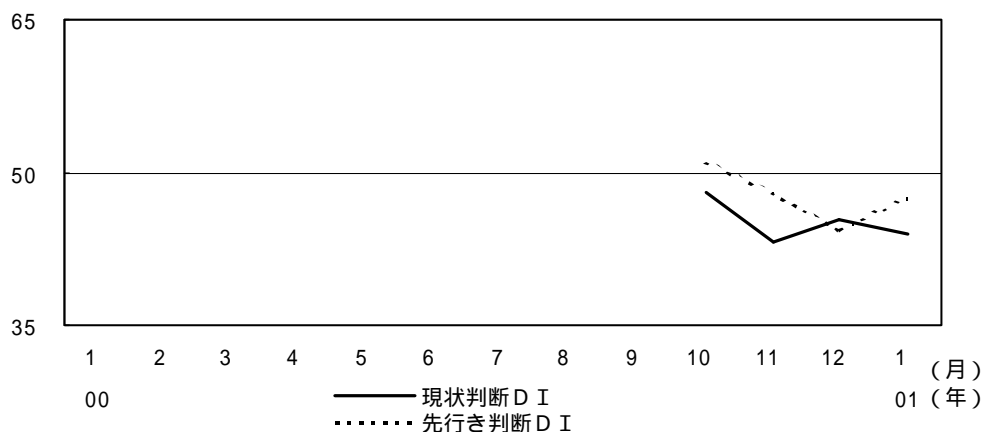


4. 南関東

良、 やや良、 不変、 やや悪、 ×悪

現状	多数回答	家計動向 関連	変わらない	・正月の初売りは好調だったがシーズンを通した売上は変わらない(百貨店、商店街)。 ・来客数が減少している(スーパー、その他専門店[眼鏡])。
			やや悪くなっている	・客単価が低下している(スーパー、コンビニ、衣料品専門店)。
	企業動向 関連	変わらない	・良い業種と悪い業種が鮮明になる(不動産業)。 ・売上が減少して悪い状態で変わらない(金融業)。	
		やや悪くなっている	・客はコストダウンの話でもちきりである(一般機械器具製造業)。	
	雇用 関連	やや良くなっている	・派遣受注は多い(人材派遣会社)。 ・新規求職者数が漸減している(職業安定所)。	
		変わらない	・自分の都合に合わせた仕事を選ぶため、就職先が見つからない(人材派遣会社)。	
	特徴	: 今年に入って、客が欲しいもの、興味を引くものが多数発表されており、売上はやや良くなっている(家電量販店)。 : 正月のクリアランス商戦立ち上がりは比較的順調であったが、3回の大雪で売上は厳しい状況にある(百貨店)。 : 組織の分社化、持ち株会社制度など世の中の仕組みが変わってきており、周辺の会社もかなり変化が激しく、不安感を持っている(広告代理店)。 : 各公共事業体、大学などにおいて、IT関連の設備投資に関する様々な提案、相談があるが、1件当たりの金額が小さくなっている(その他サービス業[情報サービス])。		
先行き	多数回答	家計動向 関連	変わらない	・買い控えや節約傾向が強い(商店街、一般小売店[CD])。 ・低価格志向が続く(百貨店、スーパー、その他小売[卸売])。
			やや悪くなっている	・予約状況が悪い(一般小売店[パン]、高級レストラン、ゴルフ場)。
	企業動向 関連	変わらない	・受注量が少ない(繊維工業、一般機械器具製造業)。 ・単価が厳しい(金属製品製造業)。	
		やや悪くなっている	・倒産により取引先企業へ影響を及ぼす(金融業)。	
	雇用 関連	変わらない	・情報関連産業からの求人数の伸びがない(職業安定所)。 ・IT関連企業は派遣社員を求めている(学校[専門学校])。	
		やや良くなっている	・求人の増加傾向が続いている(職業安定所)。	
	特徴	: 2月上旬に新型モデルの発表を控え、先行きの景気は良い(乗用車販売店)。 : エアコン、冷蔵庫、テレビ、洗濯機で4月1日から家電リサイクル法が実施されるので、2、3月は駆け込み需要が期待できる(家電量販店)。 : イベントの集客次第である。高額品も全く売れないわけではないが、しばらく低価格志向が続き、価格の二極化が進む(百貨店)。 : 売出しは継続的に行っているが、価格競争が激しく売上回復は望めない(スーパー)。 : 2、3月とも予約状況が非常に悪く、昨年、一昨年よりも厳しい(高級レストラン)。 ×: 年度末の3月を迎え、倒産件数が多くなる気運がみられる(輸送業)。		

(DI) 図表22 現状・先行き判断DIの推移

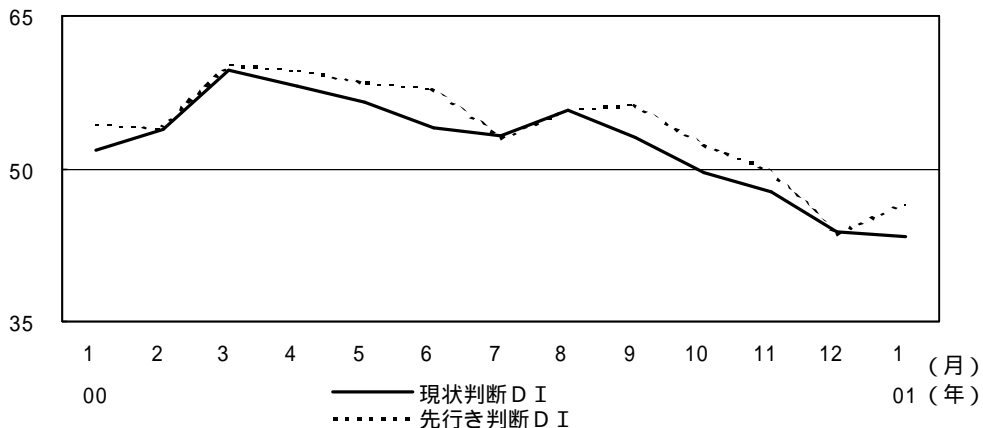


5. 東海

良、 やや良、 不変、 やや悪、 ×悪

現状	多数回答	家計動向関連	変わらない	・低価格志向である（百貨店、スーパー、家電量販店等）。 ・客単価に変化がない（一般小売店〔土産〕、パチンコ店）。
		企業動向関連	やや悪くなっている	・来客数が減少している（コンビニ、テーマパーク、ゴルフ場）。
		雇用関連	やや悪くなっている	・少額でも手形で支払う取引先が増加している（電気機械器具製造業）。 ・荷動きが悪くなっている（輸送業）。
			変わらない	・仕事が取れない状況は変わらない（建設業）。
		やや良くなっている	・技術力や営業力の高い社員の求人はあるが、それ以外の募集は低調である（新聞社〔求人広告〕、職業安定所、民間職業紹介機関）。 ・求人数は増加しているが、求職者数は高止まりとなっている（職業安定所）。 ・派遣の受注が増加している（人材派遣会社）。	
特徴	: 会社の設立や増資、土地の売買などが増加している（司法書士）。 : 価格に対してシビアな消費行動は続いているが、クリアランスセールは非常に好調であり、潜在的な需要はある（百貨店）。 : 問屋や納入業者、商社の販売や購買が弱っている（食料品製造業）。 × : 需要低迷で倉庫が一杯であり、新規に倉庫を借りられなくなっている（食料品製造業）。			
先行き	多数回答	家計動向関連	変わらない	・客単価が上昇しない（百貨店、一般レストラン）。 ・客がレジャー産業に使う金額が減少している（テーマパーク、パチンコ店）。
			やや良くなっている	・必要な物や欲しい物に関してはお金をかける傾向にある（乗用車販売店、住宅販売会社）。
		企業動向関連	変わらない	・仕事量は増える可能性はあるが、単価は上昇しない（非鉄金属製造業、建設業、輸送業）。 ・顧問先の企業の建設、小売、サービス業が横ばいである（税理士）。
			やや悪くなっている	・大手量販店のリストラにより、売場の縮小が予定されている（食料品製造業）。
		雇用関連	変わらない	・派遣契約が短期化しており、料金も据置き状態が続いている（人材派遣会社）。 ・小規模企業では収益の確保やコストダウン対策でリストラが続いている（職業安定所）。
やや悪くなっている	・地場産業であるアパレル関係業種の廃業が相次いでいるが、そこからの失業者の受入れ企業が少ない（職業安定所）。			
特徴	: 各企業は景気低迷に打開策を打ち始めており、オリジナリティーあふれる商品開発が進んでいる（その他小売〔総合衣料〕）。 : 二輪車、情報関連機器、ゲーム機器などが一部生産拠点を海外に移転し、雇用面で影響が出始めている（アウトソーシング企業）。 × : 金融公庫の融資の期限が切れるため、3か月後は住宅への投資が更に厳しくなる（住宅販売会社）。			

(DI) 図表23 現状・先行き判断DIの推移

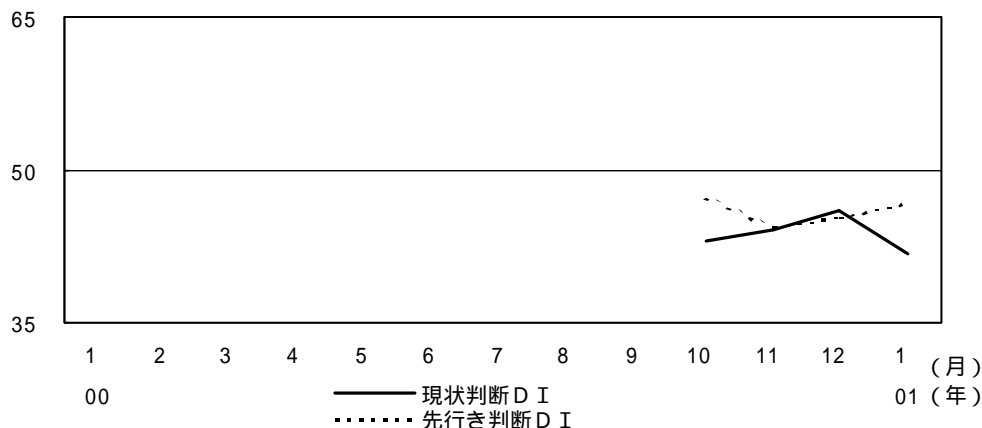


6. 北陸

良、 やや良、 不変、 やや悪、 ×悪

現状	多数回答	家計動向関連	変わらない	・来客数が確保できている（スーパー、住宅販売会社）。 ・客単価が低下している（一般小売店〔果物〕、一般レストラン）。
			やや悪くなっている	・来客数が減少している（商店街、百貨店、衣料品専門店等）。
	企業動向関連	変わらない	・取引価格が下落している（電気機械器具製造業）。 ・特定債務調停事件等が相変わらず多い（司法書士）。	
		やや悪くなっている	・1月の売上がIT関連を中心に2割減少している（通信業）。	
	雇用関連	やや悪くなっている	・企業からの求人問い合わせがかなり減少している（学校〔大学〕）。 ・雇用保険受給者が増加している（職業安定所）。	
		変わらない	・アウトソーシング業界の求人ニーズは高いが、全体の求人件数等は横ばい状況である（求人情報誌製作会社）。	
特徴	: 料金の値下げや料金の1割をスタンプで返すなどの営業努力により、客のムードが良くなっている（タクシー運転手）。 : IT・情報産業以外の分野にも新規求人がかなり拡大してきている（職業安定所）。 : 冬物セールの時期に大雪だったため、来客数が減少し、大きなダメージを受けた（百貨店）。 : 建設工事の減少により、受注競争が激しく、利益確保が困難になっている（建設業）。			
先行き	多数回答	家計動向関連	変わらない	・低価格志向が続いている（商店街、一般小売店〔果物〕、一般レストラン）。 ・必要なものしか購入しない傾向にある（百貨店、スーパー）。
			やや良くなっている	・来客数が増加している（コンビニ、家電量販店）。
	企業動向関連	やや悪くなっている	・先行きへの懸念から、客が設備投資計画の先送りを続けている（建設業）。 ・価格の引下げ要請が強い（金属製品製造業）。	
		変わらない	・一部機種の受注は増加しているものの、全体では前年割れをしている（電気機械器具製造業）。	
	雇用関連	変わらない	・人文科学系の学生の就職活動は厳しい状況が続く（学校〔大学〕）。 ・販売業界の求人が横ばい状況である（求人情報誌製作会社）。	
		やや悪くなっている	・製造業の多くの業種で求人が減少している（職業安定所）。	
特徴	: 新たな求人はあるものの、中高年の求職者が滞留しており、ミスマッチが生じている（職業安定所）。 : 家電リサイクル法の施行により、節約志向が高まる（家電量販店）。 : 1月に入り、アメリカからの需要がかなり減少している（一般機械器具製造業）。			

(DI) 図表24 現状・先行き判断DIの推移

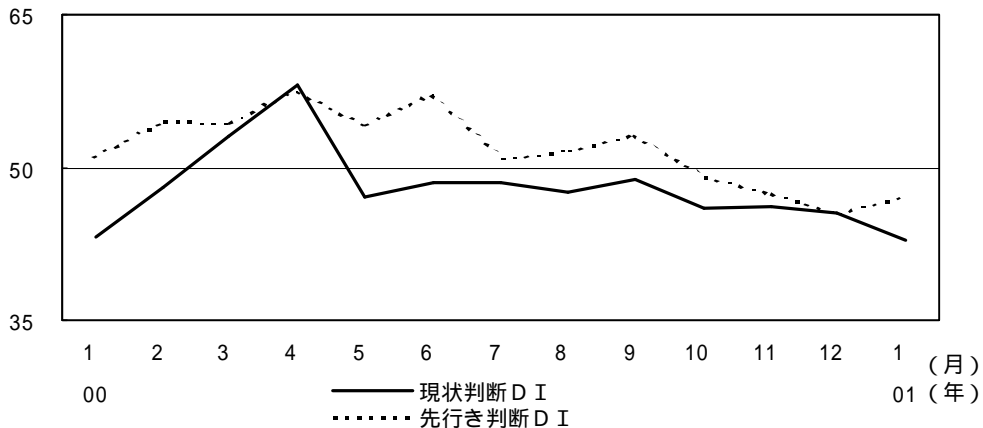


7. 近畿

良、 やや良、 不変、 やや悪、 ×悪

現状	多数回答	家計動向関連	変わらない	・単価が低迷している（百貨店、スーパー、都市型ホテル等）。 ・購買態度が慎重である（百貨店、スーパー、衣料品専門店）。
			やや悪くなっている	・単価が下落している（一般小売店〔精肉〕スーパー、ゴルフ場）。
	企業動向関連	変わらない	・価格が低迷している（金属製品製造業、一般機械器具製造業、輸送業）。 ・一部製造業で安定した運転資金需要がある一方、飲食等で返済猶予等の申出がある（金融業）。	
		やや悪くなっている	・受注状況が悪化している（繊維工業、一般機械器具製造業、電気機械器具製造業）。	
	雇用関連	変わらない	・新規求人数は増加しているが、求職者数が減少していない（職業安定所）。 ・正社員の採用が手控えられる反面、派遣需要は伸びている（人材派遣会社）。	
やや良くなっている		・派遣スタッフの利用が伸びている（人材派遣会社）。		
特徴	: パソコン、乾燥機付洗濯機等のヒット商品を割り引くと、高額にもかかわらず良く売れるが、全体としては単価下落の傾向にある（スーパー）。 : 値引き競争が厳しく採算を度外視した価格競争が続いている（出版・印刷・同関連産業）。 × : 大型店の出店により売上が徐々に悪化している（小売店〔衣服〕）。 × : パーゲンで例年以上に安く商品を提供しているにもかかわらず、まったく動きがない（衣料品専門店）。			
先行き	多数回答	家計動向関連	変わらない	・客の購買態度が慎重である（百貨店、スーパー）。 ・単価の低迷が続いている（スーパー、衣料品専門店）。
			やや良くなっている	・ユニバーサル・スタジオ・ジャパンの好影響が期待される（都市型ホテル、旅行代理店、タクシー運転手）。
	企業動向関連	変わらない	・利益が出にくい（電気機械器具製造業）。 ・企業倒産の連鎖的影響が出る（その他製造業〔ゴム製プラスチック製履物〕）。	
		やや悪くなっている	・コストダウンの要求が非常に多い（出版・印刷・同関連産業）。	
	雇用関連	変わらない	・専門性の高い仕事の募集のため、雇用のミスマッチが目立つ（新聞社〔求人広告〕）。 ・就職率は増加しているが、雇用保険需給者が増加傾向にある（職業安定所）。	
やや悪くなっている		・求人数の回復に、鈍化傾向がみられる（職業安定所）。		
特徴	: 外資系大規模店の開業や近隣店舗の対応策強化で、客数が増加しない（スーパー）。 : 先行き不安、雇用不安の中で、一番消費に多額のお金を使う中高年層の節約意識が非常に強い（スーパー）。 : 販売の現場からみて、消費者が満足する商品を提供していない（百貨店）。			

(D I) 図表25 現状・先行き判断D Iの推移

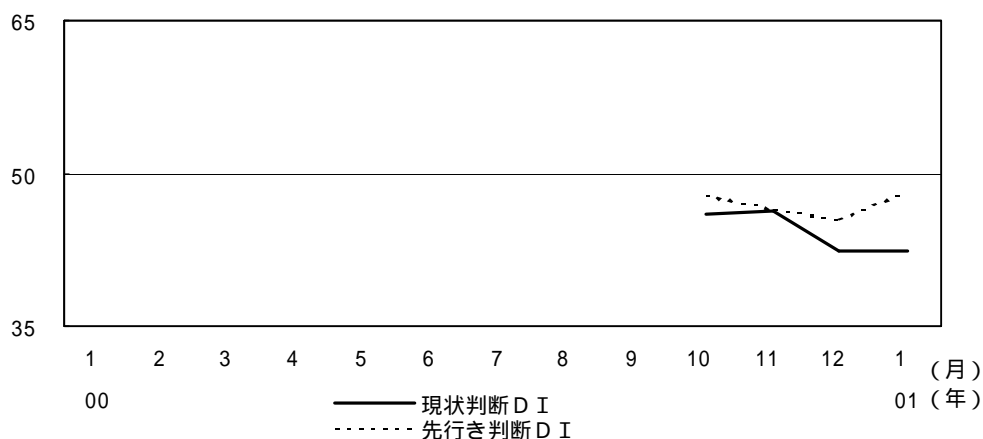


8. 中国

良、 やや良、 不変、 やや悪、 ×悪

現状	多数回答	家計動向 関連	変わらない	・来客数に変化がない(商店街、スーパー、衣料品専門店等)。 ・客単価に変化がない(商店街、衣料品専門店)。	
			やや悪く なっている	・客単価が低下している(一般小売店[菓子] コンビニ、一般レストラン等)。	
		企業動向 関連	変わらない	・受注状況に変化がない(一般機械器具製造業)。 ・販売の低下が続いている(電気機械器具製造業)。	
			やや悪く なっている	・販売量が伸び悩んでいる(窯業・土石製品製造業、非鉄金属製造業)。	
		雇用 関連	やや悪く なっている	・採用に積極的でない(求人情報誌製作会社)。 ・悪条件でも多くの人希望を出している(新聞社[求人広告])。	
			変わらない	・企業は正社員の雇用には慎重である(人材派遣会社)。	
	特徴	: 浜田漁港での水揚げが増加している(農林水産業)。 : 大手百貨店の閉鎖の影響でクリアランスセールは良かった(百貨店)。 : 求人数は増加傾向だが、製造業が減少している(職業安定所)。 : 金融機関との融資関係が難しいと良く聞く(不動産業)。 ×: ITやエレクトロニクス関係の客の注文が減少している(鉄鋼業)。			
	先行き	多数回答	家計動向 関連	変わらない	・客単価が下がったままである(スーパー、観光型ホテル)。 ・買い控えが続いている(スーパー、自動車備品販売店)。
				やや悪く なっている	・客単価が減少している(スナック)。
			企業動向 関連	変わらない	・販売価格が下がったままである(電気機械器具製造業)。 ・注文が減っている(輸送用機械器具製造業)。
やや悪く なっている				・販売価格が落ち込む(窯業・土石製品製造業)。	
雇用 関連			変わらない	・雇用状況は依然厳しい(人材派遣会社)。 ・リストラや休業の動きがみられる(職業安定所)。	
			やや悪く なっている	・求人を取り消す企業もある(職業安定所)。	
特徴		: 「山口きらら博」の準備が進んできている(観光型ホテル)。 : 複数の業種で新規学卒者の採用計画に大きな伸びがある(学校[大学])。 : 大阪に大型テーマパークが開園するため影響がある(テーマパーク)。 : 百貨店や自動車メーカーのリストラが始まるので、購入意欲の減少がある(乗用車販売店)。 : 高炉メーカー、電子部品メーカーの生産量が落ち込むことで、販売量が低下し、販売価格も落ち込む(窯業・土石製品製造業)。 ×: 家電リサイクル法に対応する需要が見込めるが、その後不安を持っている(家電量販店)。			

(DI) 図表26 現状・先行き判断DIの推移



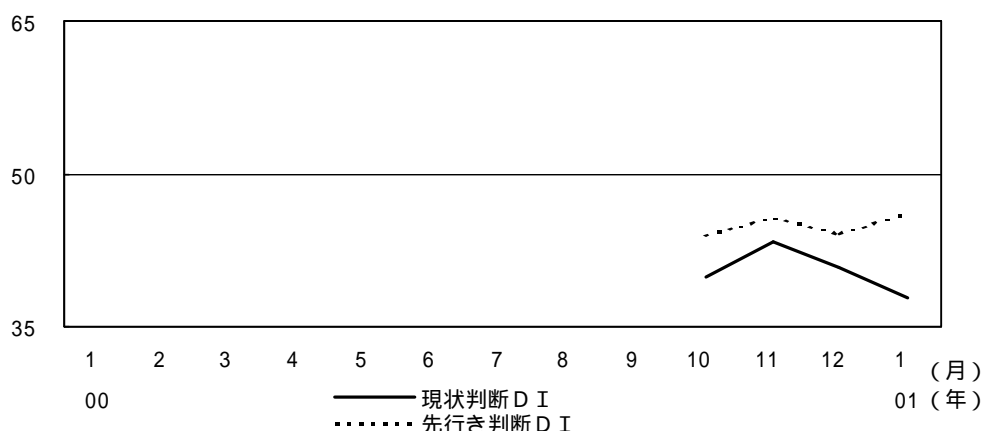
9. 四国

良、 やや良、 不変、 やや悪、 ×悪

現状	多数回答	家計動向関連	変わらない	・客単価が厳しい(百貨店、スーパー、その他専門店[酒])。 ・目的買い以外の買物がない(百貨店、衣料品専門店、家電量販店等)。
			やや悪くなっている	・低価格志向、買い控えが増えている(商店街、その他専門店[CD]通信会社等)。
		企業動向関連	変わらない	・相変わらず安値受注が続いている(建設業)。 ・車の稼働率が非常に悪い(輸送業)。
			やや悪くなっている	・毎日の受注状態をみると、景気はむしろ悪くなっている(パルプ・紙・紙加工品製造業)。
		雇用関連	変わらない	・有効求職者数がほぼ横ばいで推移している(職業安定所)。 ・技術派遣などの特殊なものは増えているが、一般的な事務の件数は減っている(人材派遣会社)。
		やや悪くなっている	・年が明けてから、様々な企業で一層のリストラが進行している(求人情報誌製作会社)。	
	特徴	: 買う場所をあらかじめ決めるなど、完全に計画購買に入っている(百貨店) : 忘年会が少なかったので新年会に期待したが厳しかった(スナック) : 輸入品が昨年から2割ほど増えており、タオル産地に対する注文は厳しい状態が続いている(繊維工業) ×: 携帯電話の買い替えが減少傾向にあり、利用頻度が落ちている(通信会社)		
先行き	多数回答	家計動向関連	変わらない	・客単価が低下している(スーパー、コンビニ)。 ・大型店の出店の影響がある(商店街、スーパー)。
			やや悪くなっている	・地元百貨店の倒産の影響が出る(百貨店、タクシー、美容室)。
		企業動向関連	変わらない	・同業者による運賃下げがかなり行われている(輸送業)。 ・案内時に感触が良い客でも、即決は少ない(不動産業)。
			やや悪くなっている	・流通業界の売上不振により、広告費が減少傾向にある(広告代理店)。
		雇用関連	変わらない	・求人はサービス業を中心に増加傾向が続くが、事業所の閉鎖や人員整理による求職者の増加も予想される(職業安定所)。
	やや良くなっている	・契約期間の節目の1つである12月末での契約終了が予想以上に少なかった(人材派遣会社)。		
	やや悪くなっている	・4月以降の人員の縮小、あるいは営業所の統廃合という話も取引先で聞いている(人材派遣会社)。		
	特徴	: 家電リサイクル法対象4品目が大幅に伸びている(家電量販店)。 : 地元百貨店の民事再生法申請の影響を懸念する声(百貨店、スーパー、家電量販店、タクシー等)が多い。 : 大阪のユニバーサル・スタジオ・ジャパンのオープンにより、人の流れが奪われてしまうことを懸念する声(観光型旅館、都市型ホテル)がある。 : 電気機械器具製造関係の下請企業が人員整理等を予定している(職業安定所)		

(DI)

図表27 現状・先行き判断DIの推移

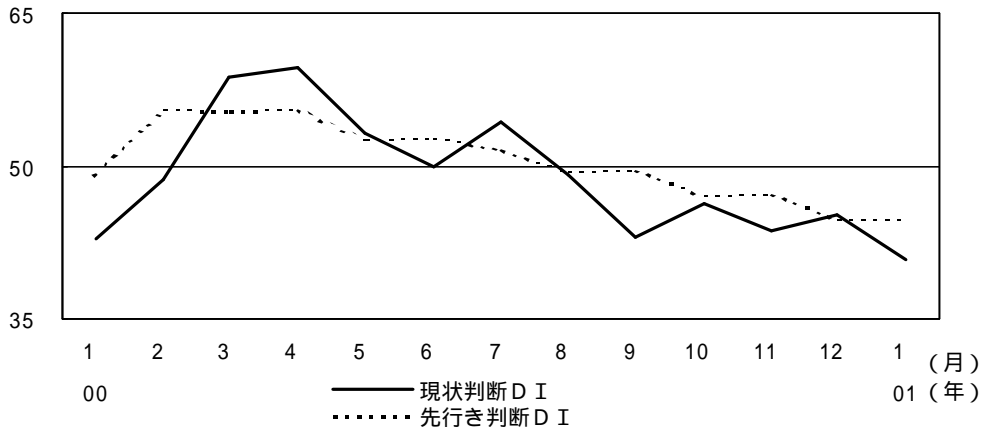


10. 九州

良、 やや良、 不変、 やや悪、 ×悪

現状	多数回答	家計動向関連	変わらない	・来客数、売上が変わらない(スーパー、一般小売店[精肉])。 ・人通りが少なく活気がない(商店街)。
			やや悪くなっている	・客単価が低下している(百貨店、スーパー)。
	企業動向関連	やや悪くなっている	・受注は変わらないが、I C関連が若干減少している(精密機械器具製造業)。 ・契約の状況が悪くなっている(リース)。	
		変わらない	・競争が厳しく受注に結びつかない(建設業)。	
	雇用関連	変わらない	・正社員を募集するところが少ない(学校[専門学校])。 ・就職がきまっていない大学生の数は減少していない(求人情報誌製作会社)。	
		やや悪くなっている	・失業者が増えているほか、転職者も目立ち、求人の傾向も欠員補充が中心である(求人情報誌製作会社)。	
特徴	: クリアランスセールの上立ち上がり、初売りの福袋は非常ににぎわいがあったが、それが終わるとまた落ち着いてしまう(百貨店)。 : 半月ばくくらいまでは回復の兆しもあったが、それ以降は天候の関係もあって客足が遠のいている(百貨店)。 : 3か月前と比べてだいぶ悪くなっており、年配の客についても昨今の景気動向を気にしているのか、非常に下向きになっている(旅行代理店)。 : 半導体業界の金型は全国的にみて非常に受注が落ち込んできており、半導体関連が下降気味ということがはっきりと出てきている(電気機械器具製造業)。			
先行き	多数回答	家計動向関連	変わらない	・客単価が変わらない(スーパー、家電量販店)。 ・低価格志向が続く(コンビニ、家電量販店)。
			やや悪くなっている	・バーゲン以外では消費者は動かない(衣料品専門店)。
	企業動向関連	変わらない	・チラシの取扱い枚数が若干増えてきている(広告代理店)。 ・中小企業を中心に体力が低下しているところが目立つ(金融業)。	
		やや悪くなっている	・7月以降から上昇するとみているが、日々の発注状況が非常に落ち込んでいる(電気機械器具製造業)。	
	雇用関連	変わらない	・現在の景気回復感は一T関連に留まり、全産業横断的なものとはなっていない(職業安定所)。 ・就職の内定率があまり芳しくない(人材派遣会社)。	
		やや良くなっている	・仕事の依頼が来ている(人材派遣会社)。	
特徴	: 消費者の購買意欲を活発にさせる要素が北九州地区ではみられず、福岡市への流出は食い止められない(百貨店)。 : 有明海のノリの不作が、不況の原因になるのではないかと懸念される(スーパー)。 : 節約節約の傾向が強く、ディスカウント店にはにぎわいがあるが、通常のスーパー等のチラシには消費者は関心を示さず、買いに行かない(コンビニ)。			

(D I) 図表28 現状・先行き判断D Iの推移

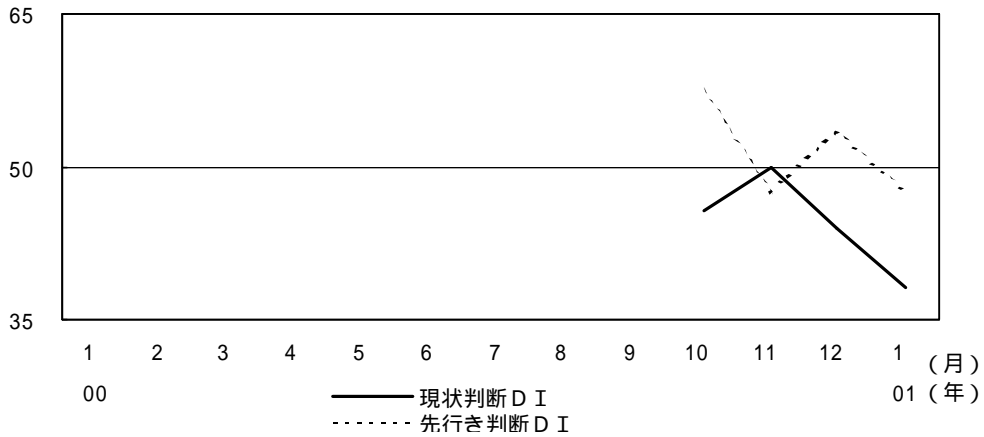


11. 沖縄

良、 やや良、 不変、 やや悪、 ×悪

現状	多数回答	家計動向関連	変わらない	・客単価が低迷している（百貨店、観光型ホテル等）。 ・買物客が増えていない（商店街）。
			悪くなっている	・来場者数が激減している（観光名所）。
		企業動向関連	やや良くなっている	・大型店がオープンしている（輸送業）。
			やや悪くなっている	・客が予算を確保できずに苦しんでいる（通信業）。
	雇用関連	やや悪くなっている	・求人が先月より悪い（学校〔専修学校〕）。	
特徴	: 12月商戦の不振の反動と、新店舗オープンの相乗効果で、今までマイナスだった既存店ベースでも前年並みの売上を確保している（スーパー）。 : 今月期待していた米軍や防衛庁関係の工事発注が思うように出てきていないほか、設計会社の受注状況も悪く、求人が先月より悪い（学校〔専門学校〕）。			
先行き	多数回答	家計動向関連	変わらない	・客の低価格志向が続く（衣料品専門店）。 ・客単価低下に歯止めがかかっている（スーパー）。
			やや良くなっている	・旅行が増えてきている（観光型ホテル）。
		企業動向関連	変わらない	・物量の増加が続く（輸送業）。
			やや悪くなっている	・2～3か月以内にインターネットがビジネスに結びつくかが課題である（通信業）。
	雇用関連	変わらない	・求人件数は伸びてきているが先行き不透明である（求人情報誌製作会社）。	
特徴	: 家電リサイクル法施行前の買い替え需要は、徐々に盛り上がるのではなく、3月以降の駆け込み需要になる（家電量販店）。 : 世界遺産等、沖縄をアピールする素材はあるがすぐには効果が出ない（高級レストラン）。			

(D I) 図表29 現状・先行き判断D Iの推移



(参考) 景気の現状水準判断D I

現在の景気の水準自体に対する判断は、以下のとおりであった(注)

図表 30 景気の現状水準判断D I

(D I)	年 月	2000 8	9	10	11	12	2001 1
合計		42.4	41.9	38.0	37.8	39.3	36.1
家計動向関連		38.6	37.7	34.0	34.5	37.1	34.7
小売関連		34.6	36.6	32.1	32.2	33.3	34.3
飲食関連		34.6	31.1	30.1	34.5	45.3	34.8
サービス関連		46.1	41.5	39.8	40.2	43.4	36.1
住宅関連				34.4	33.0	37.3	32.4
企業動向関連		47.6	49.8	44.0	42.3	42.0	35.9
製造業				46.4	44.2	44.4	35.3
非製造業				42.2	40.8	40.0	37.0
雇用関連		62.0	57.8	52.6	51.2	48.1	46.3

図表 31 景気の現状水準判断D I (各分野計)

(D I)	年 月	2000 8	9	10	11	12	2001 1
全国		42.4	41.9	38.0	37.8	39.3	36.1
北海道		36.1	38.8	39.6	40.3	41.6	37.2
東北		39.8	38.5	39.3	36.0	39.6	33.0
関東		42.8	44.3	39.8	37.8	39.8	37.8
北関東				37.5	38.5	37.7	36.0
南関東				40.9	37.4	40.8	38.7
東海		51.0	47.1	41.8	40.4	39.7	38.6
北陸				33.5	35.9	40.3	33.9
近畿		41.7	41.5	38.0	37.9	41.2	39.8
中国				35.8	38.8	38.5	38.5
四国				27.1	28.4	28.5	28.4
九州		43.0	41.0	38.5	39.2	39.1	33.8
沖縄				40.6	48.8	42.9	38.1

(注) 景気の現状をとらえるには、景気の方方向性に加えて、景気の水準自体について把握することも必要と考えられることから、参考までに掲載するものである。

(備考) 10月以降は全国1,500人を調査対象とし、9月以前は6地域600人を対象とする。